2026 年 6 月 22 日
一般社団法人日本損害保険協会　経営企画部国際業務室

2026 年度日本国際保険学校（ISJ）上級コースを開催しました

一般社団法人　日本損害保険協会(会長：舩曳 真一郎)では、日本国際保険学校（ISJ）について、2026 年度の上級コースは昨年度に続き「レジリエントで持続可能な損害保険事業を行うための戦略の策定」をテーマに、オンライン 1 週間（5 月 27 日～6 月 2 日）と対面 1 週間（6 月 10 日～6 月 16 日）を効果的に組み合わせたハイブリッド方式で開催しました。

上級コースは、幹部候補人材を主な対象とし、ワークショップ形式を中心に本邦損害保険業界における各種戦略等を学ぶことを目的としています。本コースでは、MS&AD インシュアランスグループホールディングス株式会社本社での課外講義や参加者同士の議論の機会等も設定のうえ、東アジア 12 地域から損害保険会社や保険監督官庁等の 23 名を参加者として迎えました。

オンラインパートの開講式では、損保協会の宇田川智弘常務理事が主催者を代表して挨拶を行い、世界的な地政学リスクの増大、自然災害の多発化・激甚化、AI やサイバー攻撃に伴う新たなリスクの顕在化といった状況を踏まえ、共通の課題に直面していることを説明しました。その上で、「共に解決策を模索しながら、東アジア各地域の損害保険業界を牽引する次世代のリーダーとして活躍していただきたい」と期待を寄せました。

また、対面パートの開講式では、同協会の大知久一専務理事が主催者を代表して歓迎の意を表し、損害保険が果たすべき社会的な役割について参加者に問いかけました。そして、「時代や環境の変化にリスクはつきものであり、不確実な事象に対する社会のレジリエンス強化は、国際社会の最重要課題の一つである」と強調し、東アジア域内での知見の共有とさらなる連携構築の意義を呼びかけました。

各講師には、メインテーマに沿った質の高い講義を展開いただき、参加者からの鋭い質問にも的確かつ丁寧に対応いただいたことで、双方に新たな視点や気づき等をもたらす、深い学びの場に繋がりました。

参加者からは「日本の損害保険業界が新たな価値を生み出し社会を支える姿に、サステナビリティの本質を学び視野が大きく広がった。専門知識の習得にとどまらず、私たちが果たすべき真の使命が深く心に刻まれた」という声や、「帰国後も、ここで育んだ連帯感と使命感をそれぞれの地域へ引き継いでいけるものと信じている」といった熱い想いが寄せられました。

本プログラムは、東アジアの損害保険業界の垣根を超えた強固なネットワークを構築し、未来へつながる新しい学びの場として、確かな一歩を刻むものとなりました。

最終日の修了式

日本国際保険学校（ISJ：Insurance School (non-life) of Japan）

- 国連貿易開発会議（UNCTAD：United Nations Conference on Trade and Development）の勧告および東アジア保険会議（EAIC：East Asian Insurance Congress）の要請を受け、東アジア地域の損保業界に対して行う海外技術援助研修プログラム。
- 1972 年に一般コース、1991 年に上級コースを開講し、これまでに一般・上級コースでのべ 2,420 名以上の卒業生を輩出している。